

事業活動パネル展に寄せられた若者の感想 北陸大学1年生から



富山応援隊の事業報告を閲覧して、富山のために行動を起こしたいと考える人たちが、様々な活動を行っているということを知りました。この事業報告展示をきっかけに、私自身も地域活性化ということに興味を持つことが出来ました。

富山応援隊の活動を見ると、街なかや海岸の清掃活動以外にも、人と人が交流することができるような企画の開催をするなど、様々な活動をしていることが分かります。

「富山のために何かをしたい」という思いから、『住みやすく・働きやすく・遊びやすい(観光しやすくまちに出掛けやすい)富山をつくる』というはっきりとした目標が生まれたのでしょうか。

この事業報告の展示において、とても印象に残っているのは写真でした。多くの写真が展示されていましたが、そのほとんどの写真は笑顔であったので、楽しく活動を行っている団体なのだなという印象を持つことが出来ました。

ボランティア活動を行いたいと思う様々な世代の人がいる中で、特に学生は、「地元で貢献したい」と言う人が多く居ます。しかし、言葉では言っても、地域貢献のために何か具体的に行動を起こしているかと言われると、そうではない人のほうが圧倒的に多いと思います。

富山応援隊の活動は、富山の自治体・企業などとも共同で活動を行っていたりします。また、活動の種類が多いので、地元で貢献できるような活動を少しでも行ってみたいと考えている私にとっても魅力的だと思いました。

富山のために活動を行っている団体があり、その団体を通して様々な活動が生まれているということを知ることが出来たのは、良かったと思います。

この富山応援隊の活動をもっと周囲の多くの人たちにも知ってもらい、認知が進んで行けば、より一層富山の活性化につながっていくのではないかと思います。

北陸大学一年 匿名希望

事業活動パネル展に寄せられた若者の感想 金沢大学1年生から

大学に入学して一年、他県からの学生と交流する機会が増え、自分の地元について互いに紹介することが多くなったように感じます。私はそんな時、いつも「富山県は食べ物が美味しくて、自然豊かな県だよ」という程度のことしか紹介できません。

それ以外にもっと富山県の魅力を知ってほしいと思っても、具体的に何が魅力であるかと言われると自分ですぐには答えることができません。

今回、富山応援隊の活動理念や実際の活動を見て、自分自身が富山をよりよくしたいと思って何か行動することで富山の魅力を再発見できるのだということがわかり、私も富山の将来のために行動に移していこうと思いました。

まず、住みやすい富山を創るために、3RのうちReduceが最も大事だと知ったので、食品店はもちろん衣料品店での買い物の際にもマイバックを持参して、プラスチックごみを減らそうと思います。

しかし、「働きやすい富山を創る」こと、「遊びやすい富山を創る」ことについては自分自身ができることは少なく感じます。そのため、団体や県全体で取り組まなくてはいけない課題だと考えます。特に「遊びやすい富山を創る」ためには、県全体で方針を統一した投資が必要だと考えられます。

近年、ガラス美術館や富山県立美術館がリニューアルするなど、富山県では「アート」で観光業を盛り上げる動きがあるように思います。外国でも荒廃した街に若い芸術家を招き芸術活動をさせることによって、街全体が観光資源になり、多くの若者や観光客が訪れ、景気が回復したという事例があります。アートは地域を活性化させるために重要な観光資源です。そのため、ガラスや銅器などの富山の伝統技術とアートを組み合わせる等して「遊びやすい富山を創る」ための投資を今後も拡大していくとよいのではないかと思います。

私は大学卒業後、富山に戻り富山で就職したいと考えています。それは偏に家族が近くにいるという安心な環境で生活したいと思うからです。しかし、住みやすい富山を創るためにごみを減らすことで清掃への無駄な投資が減ったり、多くの観光客がアートを楽しむ遊びやすい街になることで経済が潤ったりすることで、「働きやすい富山だから、富山に戻り富山で就職したい」と思えるようになるのではないかと思います。

今回、富山応援隊の活動を初めて知りましたが、富山を守るために真摯に活動されていることを知り、私も大切なふるさと富山を守るためにできることから始めてみようと思いました。」

金沢大学1年 Sさん



市民レポート 多世代交流会に参加して 富山大学1年生から

12月の多世代交流会で私が感じたことは、社会人の方々は、富山を自ら活気づけようとするパワーがあるということです。
このことは私が4月に大学入学したと同時に富山に来た時からうすうす感じていたことでしたが、この日それが確信になりました。
確かに日本全国各地で社会人によるセミナーや町おこし等は行われているため、富山に限ったことではないかもしれませんが、私が自分の目で見て、耳で聞いた、富山の人たちの元気さや、気持ちの若さには衝撃を受けました。
この日私は、富山応援隊の方にお話を聞きました。Aさんは、富山応援隊は発足した時から活動しており、
普段は清掃活動や地域の魅力発見のためのリサーチをしているそうです。
Aさんが活動する理由は、
富山の県内外からの低評価を払拭すること
富山の魅力を再発見し、「どこにもないちゃ」から「こんなのあるんだ!」という変化を生むこと。
でした。
また、地元の大農家であるBさんは、農家であるという特性上、外部の人達との関わりがやすく、コミュニケーションが取りにくかったため、「人と話したい!」という思いから入隊を決めたそうです。今では共通の趣味の友人ができ、一緒にコンサートに行くほどの仲になったそうです。
2人の思いは全く違うものですが、共通しているのは、「思いを行動にする力」だと思います。社会人になっても仕事と家庭(もしくは私生活)以外のサードプレイスを持つためのパワーや勇気は素晴らしいものだと思います。
また、多種多様な人々が集まって、1つのことに取り組むことは、まるで部活やサークルのようでとても魅力的だと思います。
大人になっても夢や目標を持って活動することをあきらめなくていいんだと思うと元気が出ました。そういった富山の人達の取組や成果、パワーや意志が街に表れているのだと思います。

富山大学1年 秋元結羽



ピリカ体験会に参加して 市民からの声

～参加者の声(野口さん)～

富山県の海辺のゴミを県が調べた結果

8割が富山県内(内陸)から出たゴミだったのには衝撃を受けました。
と言うことはポイ捨てや町中でゴミを拾えば、富山の海は今より8割綺麗になる。海外からの漂着物は2割
内陸を綺麗にすれば富山の海水浴場は綺麗で泳ぎ易い海になる。
今日はピリカセミナーを聞いて本当に良かったです。
知り合いにも伝えていきます。

～参加者の声(岡本さん)～

投稿までちょっと勇気が足りなくて投稿できてなかったのですが投稿したら、「ありがとう」やコメントをいただき、モチベーションも上がりました。
これから機会あれば積極的に利用したいと思います。

～参加者の声(五十嵐さん)～

今日は実戦は出来ませんでした、富山応援隊のピリカのセミナーを聞きに行きました！
これまで中々参加できなかった、ピリカと言う名の企業だとは知りませんでした。
世界中のみんなが協力して地球を綺麗にしていくって発想は素晴らしいですね。
まずは自分が出来る範囲で、やりたいと思いました。

～参加者の声(服部さん)～

ゴミ問題を考えるいい機会となりました。ありがとうございました。
日本人のポイ捨ては、一人一人の意識の持ち方で変わると思います。
自分に何か出来ることはないかを考え、行動に移していきたいと思いました。

